

# FUJITSU Cloud Service for OSS IaaS サービス仕様書

2019 年 5 月 23 日

## 1. サービス概要

当社は、一定の地理的範囲に設置されたコンピュータ等設備等の集合（以下「リージョン」という）において、データセンター設備やサービス提供用設備等の物理的な施設を共有する単位（以下「アベイラビリティゾーン」という）毎に本サービスを提供します。契約者は、以下のリージョンおよびアベイラビリティゾーンから任意のものを選択することができます。

リージョン	アベイラビリティゾーン
東日本リージョン 1(※1)	jp-east-1a
	jp-east-1b
東日本リージョン 2(※1)	jp-east-2a
	jp-east-2b
東日本リージョン 3(※1)	jp-east-3
西日本リージョン 1(※2)	jp-west-1a
	jp-west-1b
西日本リージョン 2(※3)	jp-west-2a
	jp-west-2b
西日本リージョン 3(※3)	jp-west-3
UK リージョン 1	uk-1a
	uk-1b
フィンランドリージョン 1	fi-1a
	fi-1b
ドイツリージョン 1	de-1a
	de-1b
スペインリージョン 1	es-1a
	es-1b
US リージョン 1	us-1a
	us-1b

(※1) 東日本リージョン 1、東日本リージョン 2 および東日本リージョン 3 は同じ地域の設備です。災害対策として複数リージョンを利用される場合、他のリージョンと組み合わせてください。

(※2) 西日本リージョン 1 の新規申込の受付を休止しています。

(※3) 西日本リージョン 2 と西日本リージョン 3 は同じ地域の設備です。災害対策として複数リージョンを利用される場合、他のリージョンと組み合わせてください。

## 2. コンピュート

仮想化技術によって物理的なコンピュータを分割した、インターネット経由でアクセス可能な仮想インフラストラクチャーを提供します。

### (1) スタンダードサービス

#### a. 仮想サーバ

- 物理的なコンピュータを仮想化技術によって分割することで、独立した基本ソフトウェア（以下「OS」という）を動作できる論理的なコンピュータ（以下「仮想サーバ」という）を提供します。
- 契約者は、下表記載のいずれかから仮想サーバタイプを選択し、作成することができます。

[スタンダード CPU]

提供機能		内容										
仮想サーバタイプ		S-1	S-2	S-4	S-8	S-16	M-1	M-2	M-4	M-8	M-16	XM-4
仮想サーバ バス パック	仮想 CPU 数 (vCPU)	1	2	4	8	16	1	2	4	8	16	4
	ソケット数	1	2	4	8	16	1	2	4	8	16	4
	1ソケットあたり のコア数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	メモリ割当(GB)	4	8	16	32	64	8	16	32	64	128	128

※「西日本リージョン 3」および「東日本リージョン 3」は対象外。

提供機能		内容						
仮想サーバタイプ		P-1	T-1	C-1	C-2	C-4	C-8	C-16
仮想サーバ バス パック	仮想 CPU 数 (vCPU)	1	1	1	2	4	8	16
	ソケット数	1	1	1	2	4	8	16
	1ソケットあたり のコア数	1	1	1	1	1	1	1
	メモリ割当(GB)	0.5	1	2	4	8	16	32

※「西日本リージョン 3」および「東日本リージョン 3」は対象外。

提供機能		内容					
仮想サーバタイプ		LM-1	LM-2	LM-4	LM-8	L-12	L-24
仮想サーバ バス パック	仮想 CPU 数 (vCPU)	1	2	4	8	12	24
	ソケット数	1	2	4	8	12	24
	1ソケットあたり のコア数	1	1	1	1	1	1
	メモリ割当(GB)	16	32	64	128	128	128

※「西日本リージョン 3」および「東日本リージョン 3」は対象外。

提供機能		内容						
仮想サーバタイプ		S3-1	S3-2	S3-4	S3-8	S3-8S	S3-16	S3-16S
仮想サーバ バス パック	仮想 CPU 数 (vCPU)	1	2	4	8	8	16	16
	ソケット数	1	2	4	8	2	16	4
	1ソケットあたり のコア数	1	1	1	1	4	1	4

	メモリ割当(GB)	4	8	16	32	32	64	64
--	-----------	---	---	----	----	----	----	----

※「西日本リージョン3」および「東日本リージョン3」のみが対象。

提供機能		内容				
仮想サーバタイプ		M3-1	M3-2	M3-4	M3-8	M3-8S
仮想サーバスペック	仮想 CPU 数 (vCPU)	1	2	4	8	8
	ソケット数	1	2	4	8	2
	1ソケットあたりのコア数	1	1	1	1	4
	メモリ割当(GB)	8	16	32	64	64

※「西日本リージョン3」および「東日本リージョン3」のみが対象。

提供機能		内容						
仮想サーバタイプ		P3-1	T3-1	C3-1	C3-2	C3-4	C3-8	C3-16
仮想サーバスペック	仮想 CPU 数 (vCPU)	1	1	1	2	4	8	16
	ソケット数	1	1	1	2	4	8	16
	1ソケットあたりのコア数	1	1	1	1	1	1	1
	メモリ割当(GB)	0.5	1	2	4	8	16	32

※「西日本リージョン3」および「東日本リージョン3」のみが対象。

#### [ハイスピード CPU]

提供機能		内容										
仮想サーバタイプ		S2-1	S2-2	S2-4	S2-8	S2-16	M2-1	M2-2	M2-4	M2-8	M2-16	XM2-4
仮想サーバスペック	仮想 CPU 数 (vCPU)	1	2	4	8	16	1	2	4	8	16	4
	ソケット数	1	2	4	8	16	1	2	4	8	16	4
	1ソケットあたりのコア数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	メモリ割当(GB)	4	8	16	32	64	8	16	32	64	128	128

※「西日本リージョン3」および「東日本リージョン3」は対象外。

提供機能		内容						
仮想サーバタイプ		P2-1	T2-1	C2-1	C2-2	C2-4	C2-8	C2-16
仮想サーバスペック	仮想 CPU 数 (vCPU)	1	1	1	2	4	8	16
	ソケット数	1	1	1	2	4	8	16
	1ソケットあたりのコア数	1	1	1	1	1	1	1
	メモリ割当(GB)	0.5	1	2	4	8	16	32

※「西日本リージョン3」および「東日本リージョン3」は対象外。

提供機能		内容					
仮想サーバタイプ		LM2-1	LM2-2	LM2-4	LM2-8	L2-12	L2-24
仮想サーバ	仮想 CPU 数 (vCPU)	1	2	4	8	12	24

ベック	ソケット数	1	2	4	8	12	24
	1ソケットあたりのコア数	1	1	1	1	1	1
	メモリ割当(GB)	16	32	64	128	128	128

※「西日本リージョン3」および「東日本リージョン3」は対象外。

- ・ 契約者は、作成した仮想サーバを、随時開放できます。なお、仮想サーバの状態に応じて下表のとおり料金が発生します。

状態	内容	料金発生の有無
起動	仮想サーバが起動している状態	発生する
停止	CPU およびメモリ資源を解放せず仮想サーバの OS をシャットダウンした状態	発生する
解放	CPU およびメモリ資源を解放した状態	発生しない

- ・ 契約者は、利用中の仮想サーバの仮想サーバタイプを、別の仮想サーバタイプに随時変更することができます。ただし、仮想サーバタイプの変更には、仮想サーバの停止が必要となります。
- ・ 仮想サーバを作成した場合、仮想サーバを仮想ネットワークに接続するための、IP アドレスとの関連付けを行うポートが一つ作成されます。

#### b. 専有仮想サーバ

本機能は、「西日本リージョン3」および「東日本リージョン3」は対象外です。

契約者は、別途書面による申し込みを行うことで、仮想サーバを契約者専用の物理サーバに配備することが可能です。物理サーバ1台につき、下記のリソースを利用できます。

仮想 CPU 数	40
メモリ	250GB

なお、専有仮想サーバ上では下記 OS のみ動作できます。

- ・ Windows Server
- ・ Red Hat Enterprise Linux

#### c. OS 提供サービス

契約者は、別表1に記載のいずれかから OS を選択して利用できます。契約者は、OS の利用にあたっては、当社が提示するライセンス条項に同意するとともに、これを遵守し、服するものとします。なお、一部の OS を利用するには、本ソフトウェアサポートの利用が必要となります。

#### d. ミドルウェア提供サービス

契約者は、別表2に記載のいずれかからミドルウェアがインストールされた仮想サーバを選択して利用できます。契約者は、ミドルウェアの利用にあたっては、当社が提示するライセンス条項に同意するとともに、これを遵守し、服するものとします。なお、一部のミドルウェアを利用するには、本ソフトウェアサポートの利用が必要となります。

#### e. 富士通製ソフトウェア提供サービス

契約者は、仮想サーバに対して、富士通製ソフトウェアをあらかじめ格納した状態で利用できます。契約者は、別表3に記載の富士通製ソフトウェアを利用できます。なお、当該富士通製ソフトウェアに関する使用条件については「富士通製ソフトウェアの使用に関するライセンス条項」に記載のとおりとします。また、当該富士通製ソフトウェアのサポートに関する詳細については、「15. ソフトウェアサポートサービス」に記載のとおりとします。

#### f. 仮想アプライアンス提供サービス

契約者は、別表4に記載の仮想アプライアンスを選択して利用できます。契約者は、当該仮想アプライアンスの利用にあたっては、当社が提示するライセンス条項に同意するとともに、これを遵守し、服するものとします。なお、当該仮想アプライアンスを利用するには、本ソフトウェアサポートの利用が必要となります。

#### g. 機械学習環境提供サービス

契約者は、別表 5 に記載の機械学習環境を選択して利用できます。契約者は、当該機械学習環境の利用にあたっては、当社が提示するライセンス条項に同意するとともに、これを遵守し、服するものとします。なお、当該機械学習環境を利用するには、本ソフトウェアサポートの利用が必要となります。

#### h. イメージ

・契約者は構築している仮想サーバのイメージを取得することが可能です。イメージ取得時には対象仮想サーバのために利用するシステムストレージのイメージが作成されます。取得したイメージは、プロジェクト間で共有することが可能です。

・「東日本リージョン 3」および「西日本リージョン 3」に限り、構築しているデータのイメージを取得することが可能です。イメージ取得時には対象データを格納する増設ストレージのイメージが作成されます。取得したイメージは、プロジェクト間で共有することが可能です。

#### i. キーペア

契約者は、仮想サーバへ SSH 認証を使用してログインする場合に使用するキーペアを作成および登録し、外部で作成したキーペアを登録できます。契約者は、キーペアを登録することにより、SSH 認証用の鍵ファイル (\*.pem) を取得できます。契約者は、仮想サーバの作成時に登録済みのキーペアを関連付けた場合、SSH クライアントソフトウェア側で対応する SSH 認証用の鍵ファイル (\*.pem) を用いて認証することで、仮想サーバにログインできます。

#### j. オートフェイルオーバー

サービス提供用設備等に故障が発生した際に、仮想サーバを自動でフェイルオーバーさせるオートフェイルオーバー機能を利用できます。ただし、自動でフェイルオーバーが発生した場合、仮想サーバのメモリ上で処理中のデータは保証されません。

#### k. オートスケール

・契約者は、構築する本サービスリソースに定義されている仮想サーバの台数等について、特定の条件をスケーリンググループとして設定し、条件に従ってリソースの増減を自動的に制御することが可能です。

・特定の条件として、監視と連携した閾値または日時を設定することが可能です。

・オートスケール実行後、仮想サーバに対して異常状態を検知し、自動で復旧することが可能です。

・オートフェイルオーバーを有効にした仮想サーバは、オートスケールを利用できません。

#### l. 仮想サーバインポート／仮想サーバエクスポート

・契約者は、本サービスリソース外で動作している仮想サーバのイメージを、本サービスリソースに移行できます。ただし、本サービスリソースに移行できる仮想サーバは、当社が別途定める所定の要件を満たすものに限りです。

・契約者は、仮想サーバインポートにより移行され本サービスリソースで動作している仮想サーバのイメージを、本サービスリソース外に移行できます。ただし、本サービスリソース外に移行できる仮想サーバは、当社が別途定める所定の要件を満たすものに限りです。

・対象リージョン(※1)で動作している仮想サーバのイメージおよびデータのイメージをリージョン間で移行できます。ただし、仮想サーバ作成に用いたイメージと同一のイメージが移行先リージョンで提供されている場合に限りです。

(※1)「東日本リージョン 1」、「東日本リージョン 2」、「東日本リージョン 3」、「西日本リージョン 1」、「西日本リージョン 2」および「西日本リージョン 3」

### (2) SAP 向けサービス

本機能については「東日本リージョン 1」の[jp-east-1a]アベイラビリティゾーン、「西日本リージョン 2」の[jp-west-2a]アベイラビリティゾーン、「UK リージョン 1」、「フィンランドリージョン 1」および「ドイツリージョン 1」においてのみ利用できます。

#### a. 仮想サーバ for SAP

・ SAP 社がサポート可能な仮想化環境として、SAP アプリケーション向け仮想サーバを配備できる機能を提供しま

す。

- ・ 仮想サーバ for SAP を利用したいプロジェクトに対し、環境の有効化を行う必要があります。
- ・ 契約者は、下表記載のいずれかから仮想サーバタイプを選択し、作成することができます。

提供機能		内容				
仮想サーバタイプ		WS-2	WS-4	WS-8	WS-16	WS-32
仮想サーバベースパック	仮想 CPU 数 (vCPU)	2	4	8	16	32
	メモリ割当(GB)	8	16	32	64	128

- ・ 契約者は、作成した仮想サーバを、随時開放できます。なお、仮想サーバの状態に応じて下表のとおり料金が発生します。

状態	内容	料金発生の有無
起動	仮想サーバが起動している状態	発生する
停止	CPU およびメモリ資源を解放した状態	発生しない

- ・ 契約者は、利用中の仮想サーバの仮想サーバタイプを、別の仮想サーバタイプに随時変更することができます。ただし、仮想サーバタイプの変更には、仮想サーバの停止が必要となります。
- ・ 仮想サーバを作成した場合、仮想サーバを仮想ネットワークに接続するための、IP アドレスとの関連付けを行うポートが一つ作成されます。

#### b. 専有仮想サーバ for SAP

契約者は、別途書面による申し込みを行うことで、仮想サーバを契約者専用の物理サーバに配備することが可能です。物理サーバ 1 台につき、下記のリソースを利用できます。

仮想 CPU 数	42
メモリ	245GB

#### c. OS 提供サービス

契約者は、別表 6 に記載のいずれかから OS を選択して利用できます。契約者は、OS の利用にあたっては、当社が提示するライセンス条項に同意するとともに、これを遵守し、服するものとします。なお、一部の OS を利用するには、本ソフトウェアサポートの利用が必要となります。

#### d. イメージ

契約者は構築している仮想サーバのイメージを取得することが可能です。イメージ取得時には対象仮想サーバのために利用するブロックストレージについてのイメージが作成されます。

### (3) ストレージ

仮想化技術によって物理的なストレージを分割した、インターネット経由でアクセス可能な仮想インフラストラクチャを提供します。

#### a. スタンダードサービス

##### (ア) ブロックストレージ

OS やデータを搭載するためのブロックストレージを提供します。契約者が 1GB~10TB (※1) の範囲で任意指定した容量分を 1GB 毎に割り当てて、システムストレージおよび増設ストレージとして利用できます。なお、各 OS によってシステムストレージの最低容量があります。

提供機能	内容
システムストレージの最低容量	Windows Server : 80GB
	RedHat / SLES : 40GB
	CentOS : 30GB
	Ubuntu : 3GB
	RedHat OpenShift Container Platform : 70GB

(※1) 「西日本リージョン 3」および「東日本リージョン 3」においては、1GB～8TB の範囲での指定となります。

(イ) スナップショット

ブロックストレージのスナップショット取得し、保存できる機能を提供します。スナップショット取得時には、対象となるブロックストレージについてのスナップショットが保存されます。

(ウ) オブジェクトストレージ

データをオブジェクト単位で格納、取り出しが可能なオブジェクトストレージを提供します。データは、同一リージョン内の複数のアベイラビリティゾーンに分散して格納されます。これにより、契約者はアベイラビリティゾーンの1箇所が停止した場合でも、他のアベイラビリティゾーンからオブジェクトを取り出すことができます。

提供機能	内容
1 オブジェクトのサイズ	0B～5GB
コンテナ数	制限なし
各コンテナ内のオブジェクト数	制限なし
API インターフェース	REST (https)

※ 「西日本リージョン 3」および「東日本リージョン 3」は対象外。

提供機能	内容
1 オブジェクトのサイズ	0B～5TB
コンテナ数	1000
各コンテナ内のオブジェクト数	制限なし
API インターフェース	REST (https)

※ 「西日本リージョン 3」および「東日本リージョン 3」のみが対象。

(エ) ネットワークアタッチストレージ (NAS)

本機能は、「西日本リージョン 3」および「東日本リージョン 3」は対象外です。

NAS イメージを仮想サーバへ配備することで、ネットワークアタッチストレージとして利用できます。本サービスを利用することで複数の仮想サーバからアクセス可能な共用ストレージとして利用できます。

提供機能	内容
プロトコル	Glusterfs、CIFS(SMB)から選択可能
仮想サーバタイプ※1	「2.コンピュータ」の「(1)仮想サーバ」から選択可能
サイズ	1GB 単位で任意指定可能

※1 仮想サーバタイプ P-1、T-1 を除く

(オ) ハイパフォーマンスストレージ

本機能については、「東日本リージョン 1」、「東日本リージョン 2」、「西日本リージョン 1」、「西日本リージョン 2」、「US リージョン 1」および「UK リージョン 1」においてのみ利用できます。

データを搭載するためのブロックストレージを提供します。契約者が 1TB～3TB の範囲で任意指定した容量分を 1GB 毎に割り当てて、増設ストレージとして利用できます。

b. SAP 向けサービス

本機能については「東日本リージョン 1」の[jp-east-1a]アベイラビリティゾーン、「西日本リージョン 2」の[jp-west-2a]アベイラビリティゾーン、「UK リージョン 1」、「フィンランドリージョン 1」および「ドイツリージョン 1」においてのみ利用できます。

(ア) ブロックストレージ

OS やデータを搭載するためのブロックストレージを提供します。契約者が 0.1GB~2048GB の範囲で任意指定した容量分を 0.1GB 毎に割り当てて、増設ストレージとして利用できます。

なお、システムストレージの容量は以下になります。

提供機能	内容
システムストレージの容量	・東日本リージョン 1/ 西日本リージョン 2 Windows Server 日本語版 : 80GB Windows Server 英語版 : 180GB ・UK リージョン 1/ フィンランドリージョン 1/ ドイツリージョン 1 Windows Server 英語版 : 180GB

(イ) スナップショット

ブロックストレージのスナップショット取得し、保存できる機能を提供します。スナップショット取得時には、対象となる仮想サーバにアタッチされている全ブロックストレージについてのスナップショットが保存されます。

(ウ) ハイパフォーマンスストレージ

本機能については、「東日本リージョン 1」の[jp-east-1a]アベイラビリティゾーンおよび「西日本リージョン 2」の[jp-west-2a]アベイラビリティゾーンにおいてのみ利用できます。

データを搭載するためのブロックストレージを提供します。契約者が 512GB~2048GB の範囲で任意指定した容量分を 0.1GB 毎に割り当てて、増設ストレージとして利用できます。

3. 専有物理サーバサービス

- ・契約者は、別途書面による申し込みを行うことで、本機能の利用開始および利用停止を行うことができます。
- ・本機能については「東日本リージョン 1」においてのみ利用できます。
- ・本機能は、最低利用期間を 1 年間とします。当社は、本機能に用いられるハードウェアのサポートが満了または終了する場合、1 年前の事前通知をもって本機能の利用を終了させることができます。この際、契約者は期日までに本機能の利用を停止し、契約者の責任において新しいハードウェアへ移行するものとします。
- ・契約者は、本機能に用いられるソフトウェアのサポートが満了または終了する場合、当社の求めに応じ、当該ソフトウェアのバージョンアップをすみやかに実施するものとします。

(1) 専有物理サーバ

a. 専有物理サーバ (基本)

当社は契約者の申請に基づき、以下に記載する専有物理サーバを 1 台提供します。

項目	仕様
CPU	14 コア (1.7GHz) ×1
メモリ	32GB (16GB×2)
HDD	300GB×2 (RAID1)

b. 専有物理サーバ (追加)

契約者は、本機能の利用開始時に限り、専有物理サーバを追加することが可能です。

c. スペック変更オプション

契約者は、本機能の利用開始時に限り、以下記載のオプションメニューを選択することで専有物理サーバの仕様を変更できるものとします。なお、一度利用を開始した専用物理サーバについては仕様を変更することはできません。

項目	仕様
CPU 変更	4 コア (2.6GHz) に変更



追加 CPU 運用	14 コア (1.7GHz) を 1 つ追加 ※ただし、CPU 変更を行った場合は追加することができません。
追加メモリ運用	32GB 単位で最大 192GB (32GB×6) まで搭載可能 CPU を追加した場合は、「32GB 単位で最大 384GB(32GB×12)まで搭載可能
追加 HDD 運用	900GB×2 (RAID1) 単位で最大 3600GB まで搭載可能

## (2) OS 提供サービス

契約者は、別表 7 に記載の OS を選択して利用できます。契約者は、OS の利用にあたっては、当社が提示するライセンス条項に同意するとともに、これを遵守し、服するものとします。なお、Windows Server ライセンスは、専有物理サーバの CPU 数分の利用が必要です。

## (3) 専有物理ストレージオプション

当社は、専有物理サーバに対し、ディスクアレイ装置 1 台を接続し、契約者が別途申請する RAID 構成で専有物理ストレージを利用できるようにします。専有物理ストレージは、専有物理サーバのディスクとして利用します。なお、専有物理ストレージを利用開始後に RAID 構成の変更はできません。

### a. 専有物理ストレージ (S)

契約者は、以下の構成のディスクアレイ装置 1 台を、別表 8 に記載のいずれかのパターンを選択して専有物理ストレージとして利用できます。

項目	仕様
ディスク数	900GB (SAS) × 24 本 (2 本はスペアディスク)
コントローラモジュール数	2

### b. 専有物理ストレージ (L)

契約者は、以下の構成のディスクアレイ装置 1 台を、別表 9 に記載のいずれかのパターンを選択して専有物理ストレージとして利用できます。

項目	仕様
ディスク数	900GB (SAS) × 96 本 (4 本はスペアディスク)
コントローラモジュール数	2

## 4. ベアメタルサービス

- ・契約者は、別途書面による申し込みを行うことで、本機能の利用開始および利用停止を行うことができます。
- ・本機能については「東日本リージョン 3」においてのみ利用できます。
- ・当社は、本機能に用いられるハードウェアのサポートが満了または終了する場合、1 年前までの事前通知をもって本機能の利用を終了させることができます。この際、契約者は契約者の責任において終了の日までに本機能の利用を終了する、または利用を停止し新しいハードウェアへ移行するものとします。

### (1) ベアメタルサーバ

当社は、以下に記載するベアメタルサーバを提供します。

構成	スペック	備考
機種	PRIMERGY RX2530 M4	
CPU	Intel Xeon 6130 2.1GHz	
コア/CPU数	32core (16core × 2socket)	
メモリ	256GB	
内蔵ストレージ	SAS SSD 400GB × 2	RAID1/ローカルブート
ネットワーク	10G (Dual port) × 2	シングル構成、Active/Standby構成可能 LAG構成不可

(2) OS 提供サービス

契約者は、以下の表に記載された OS を選択してベアメタルサーバ上で利用できます。

OSの名称	ライセンサー	備考
Red Hat Enterprise Linux 7	レッドハット	サブスクリプションは契約者による持ち込みとなります。

(3) 共有ディスクサービス

当社は、以下に記載する共有ディスクを提供します。

項目	内容	備考
ストレージサイズ	1ボリューム:500GB～10TB (100GB単位)	複数ボリュームを利用可能
ディスク	HDD (RAID6)	
プロトコル	NFSv3	
スナップショット機能	可能	共有ディスクサービスで利用している ボリュームのスナップショットを保存可能
バックアップ機能	可能	・ 共有ディスクのバックアップをバックア ップストレージに保存可能 ・ 別途、バックアップストレージサービス が必要

(4) バックアップストレージサービス

当社は、以下に記載する共有ディスクをバックアップする機能を提供します。

項目	内容	備考
ストレージサイズ	1ボリューム:500GB～20TB (100GB単位)	バックアップ対象のボリュームと 差分バックアップの合計サイズを設定
バックアップ世代管理	差分バックアップ 最大 250 世代	

5. ネットワーク

仮想化技術によって物理的なネットワークを分割した、インターネット経由でアクセス可能な仮想インフラストラクチャを提供します。

(1) 仮想ネットワーク

仮想サーバ等の本サービスリソースを配備するため、仮想ネットワークを作成または削除することが可能です。  
仮想ネットワークは複数作成することができます。

(2) サブネット

仮想ネットワークに接続する仮想サーバ等の本サービスリソースに対するプライベート IP アドレスの管理、DHCP による IP アドレスの自動設定等のサブネット機能を提供します。

提供機能	内容
IP バージョン	IPv4 で指定する
ネットワークアドレス	以下のプライベート IP アドレスの範囲内で、CIDR 表記で指定する ・ クラス A : 10.0.0.0～10.255.255.255 ・ クラス B : 172.16.0.0～172.31.255.255 ・ クラス C : 192.168.0.0～192.168.255.255
IP アドレス範囲	ネットワークアドレス内で払い出す IP アドレスの範囲を、開始アドレスおよび終了アドレスで指定する
ゲートウェイアドレス	ゲートウェイ IP アドレスを指定する。
DHCP による自動割当て	DHCP による自動割り当ての有無を true または false で指定する

アベイラビリティゾーン名	サブネットを作成するアベイラビリティゾーンを指定する。省略した場合は、デフォルトのアベイラビリティゾーンに作成される
--------------	--

(3) ネットワークリソース

仮想サーバ for SAP を配備するため、作成したサブネットを割り当て、仮想サーバ for SAP 環境用のネットワークリソースを作成または削除することが可能です。

(4) ポート追加サービス

仮想サーバ等の本サービスリソースを仮想ネットワークに接続するため、IP アドレスとの関連付けを行うポート（ネットワークインターフェース）を作成および管理することができます。1 台の仮想サーバに複数のポートを追加することができます。

(5) 仮想ルータ

インターネット接続、または仮想ネットワーク同士を接続するための仮想ルータを提供します。

(6) セキュリティグループ

仮想サーバに接続されたポートに対してパケットフィルタリングを行うため、ルール設定をグルーピングして定義および設定することのできるセキュリティグループを提供します。セキュリティグループには複数のルールを設定できます。1 つのポートに設定されたセキュリティグループのうち、どれか 1 つでもルールにマッチしたパケットは通信が許可され、それ以外の通信は遮断されます。（ホワイトリスト方式、OR 条件）

(7) グローバル IP アドレス提供サービス

本サービスリソースにインターネットからアクセスするためのグローバル IP アドレスを提供します。取得したグローバル IP アドレスは、フローティング IP として本サービスリソースに割り当てて利用します。

(8) VPN (IPSecVPN)

IPSecVPN 通信するためのゲートウェイ機能を提供します。なお、対向側の IPSecVPN 通信用のネットワーク装置（対向側においても本サービスにおける IPSecVPN サービスを利用する場合の IPSecVPN サービスを含む）は、契約者にて用意する必要があります。

(9) VPN (SSL-VPN)

・SSL-VPN 通信するためのゲートウェイ機能を提供します。本機能では、1 コネクションあたりのセッション数（同時接続数）は 20 セッションまでとなります。なお、接続元の SSL-VPN 通信用のクライアント装置（SSL-VPN 通信用のクライアントソフトウェアをインストールし、SSL-VPN 通信のための設定を行ったもの）は、契約者にて用意する必要があります。

・「東日本リージョン 3」および「西日本リージョン 3」においてのみ、セッション数の拡張機能を提供します。拡張機能によりセッション数を 255 セッションに拡張することができます。

(10) ファイアーウォール

仮想システムと外部ネットワークの通信および仮想システム間の通信を制御するファイアーウォールサービスを提供します。

(11) DNS

DNS コンテンツサーバを利用できるサービスを提供します。また、DNS コンテンツサーバに対するゾーン管理およびレコード管理等の運用作業を、インターネット経由で実施できる環境を提供します。

a. DNS コンテンツサーバ

DNS コンテンツサーバを利用できるサービスを提供します。

b. DNS ゾーン管理

管理しているドメインのゾーンの登録、更新、削除を行うことができます。

提供機能	内容
DNS ゾーン登録数	100 ゾーンまで
設定可能なキャッシュ保持時間 (TTL)	60～86400 秒

c. レコード管理

DNS レコードの登録、更新、削除を行うことができます。

提供機能	内容
設定可能なレコード数	1 ゾーン毎最大 10000 レコードまで
対応レコードタイプ	A、AAAA、CNAME、MX、NS、TXT、PTR、SRV ※ワイルドカード設定可能 (A、AAAA、MX、CNAME のみ)

※PTR レコードについては「東日本リージョン 1」、「東日本リージョン 2」、「西日本リージョン 1」および「西日本リージョン 2」から払い出されたグローバル IP アドレスのみ登録が可能となります。

d. 重みづけラウンドロビン

各レコードについて契約者が設定した重みづけ値に応じてヒット率を操作することで、均等ではないラウンドロビンを実現する機能です。

提供機能	内容
利用可能なレコード	A、AAAA レコードのみ
設定可能なヒット率	0～100

e. フェイルオーバー

ヘルスチェックが正常の際は通常のレコード情報を応答させ、異常の際に待機サーバのレコード情報を応答させることで、異常が発生したサーバへの接続を切り替える機能です。

f. レイテンシーベースルーティング (LBR)

DNS サーバへのアクセス元情報をもとに、そのエリアを設定したレコード情報を応答させることで、最寄りのサーバへ接続させる機能です。

g. メンテナンス

毎月 1 日の 15:00～16:00 (UTC) (日本標準時における毎月 1 日の 0:00～1:00) は、システムメンテナンスのため本機能に関する設定の登録、更新、削除を利用できません

(12) ロードバランサー

複数の仮想サーバへトラフィックを分散するロードバランサーを提供します。

ロードバランサーは、負荷分散対象として契約者が登録した仮想サーバに対してヘルスチェックを行うことができます。

(13) ネットワークコネクタ

本機能は、「西日本リージョン 3」および「東日本リージョン 3」は対象外です。

本サービスを利用することでリージョン内のアベイラビリティゾーン間のネットワーク通信、契約者のイントラネットと仮想サーバ間の通信および仮想サーバと専有物理サーバ間の通信が可能になります。契約者は、イントラネットとの間、または、専有物理サーバとの間の接続を行う際には、当社に設定情報を通知する必要があります。

(14) インターネット接続サービス (ベストエフォート)

契約者が本サービス上配備した、プライベート IP アドレスと対応させたグローバル IP アドレスにより、インターネットへ接続する環境を提供します。本サービスの利用にはグローバル IP アドレスが少なくとも一つ必要になります。

6. データベース

本機能は、「西日本リージョン 3」および「東日本リージョン 3」は対象外です。

リレーショナルデータベース機能を搭載した仮想サーバを提供します。契約者は、インターネット経由で本プラットフォームにアクセスすることにより、リレーショナルデータベースのセットアップ、運用を実行することができます。

「西日本リージョン 3」および「東日本リージョン 3」では、本機能の試用版が利用できます。試用版のサービス仕様の詳細は「FUJITSU Cloud Service for OSS データベースサービス（α版）仕様書」に規定します。

(1) データベース仮想サーバ

- ・ 契約者は、下表記載のいずれかから仮想サーバタイプを選択し、作成することができます。
- ・ 契約者は、下表記載の通り、データベース仮想サーバに対し、データベースエンジンの設定、冗長化設定、自動バックアップ設定、自動メンテナンス設定、自動マイナーバージョンアップ設定、監視設定、イベント通知設定を行うことができます。
- ・ 契約者は、利用中のデータベース仮想サーバを、いつでも削除することができます。
- ・ 停止しているデータベース仮想サーバに料金は発生しません。
- ・ 契約者は、利用中のデータベース仮想サーバの仮想サーバタイプを、別の仮想サーバタイプに随時変更することができます。なお、仮想サーバタイプの変更には、データベース仮想サーバの停止が必要となります。

[スタンダード CPU]

提供機能		内容										
仮想サーバタイプ		S-1	S-2	S-4	S-8	S-16	M-1	M-2	M-4	M-8	M-16	XM-4
仮想サーバ バック	仮想 CPU 数 (vCPU)	1	2	4	8	16	1	2	4	8	16	4
	ソケット数	1	2	4	8	16	1	2	4	8	16	4
	1ソケットあたりのコア数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	メモリ割当(GB)	4	8	16	32	64	8	16	32	64	128	128

提供機能		内容									
仮想サーバタイプ		C-2	C-4	C-8	C-16	LM-1	LM-2	LM-4	LM-8	L-12	L-24
仮想サーバ バック	仮想 CPU 数 (vCPU)	2	4	8	16	1	2	4	8	12	24
	ソケット数	2	4	8	16	1	2	4	8	12	24
	1ソケットあたりのコア数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	メモリ割当(GB)	4	8	16	32	16	32	64	128	128	128

[ハイスピード CPU]

提供機能		内容										
仮想サーバタイプ		S2-1	S2-2	S2-4	S2-8	S2-16	M2-1	M2-2	M2-4	M2-8	M2-16	XM2-4
仮想サーバ バック	仮想 CPU 数 (vCPU)	1	2	4	8	16	1	2	4	8	16	4
	ソケット数	1	2	4	8	16	1	2	4	8	16	4
	1ソケットあたりのコア数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	メモリ割当(GB)	4	8	16	32	64	8	16	32	64	128	128

提供機能		内容									
仮想サーバタイプ		C2-2	C2-4	C2-8	C2-16	LM2-1	LM2-2	LM2-4	LM2-8	L2-12	L2-24
仮想サ	仮想 CPU 数	2	4	8	16	1	2	4	8	12	24

サーバ パック	(vCPU)										
	ソケット数	2	4	8	16	1	2	4	8	12	24
	1ソケットあたりのコア数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	メモリ割当(GB)	4	8	16	32	16	32	64	128	128	128

提供機能	内容
利用可能なデータベースエンジン	<ul style="list-style-type: none"> <li>Enterprise Postgres Standard Edition</li> <li>Symfoware Server Enterprise Edition</li> </ul>
冗長化設定	同一アベイラビリティゾーン内、または異なるアベイラビリティゾーンに待機系のデータベース仮想サーバを作成することができます。
自動バックアップ設定	リレーショナルデータベースの仮想サーバを自動バックアップする時間 (UTC) と保持期間 (0～10 日) を設定することができます。
自動メンテナンス設定	週次でセキュリティアップデートやソフトウェアのパッチ適用を行う時間 (UTC) を設定することができます。
自動マイナーバージョンアップ設定	本サービスより、データベースエンジンのマイナーバージョンが提供された場合に自動でバージョンアップを行うかを設定することができます。
監視設定	データベース仮想サーバのリソースを監視します。OS レベルの監視およびデータベースエンジン内リソースを監視することができます。各監視項目に対するしきい値の設定、およびしきい値を超えた場合のアクション (メール送信) を設定します。
イベント通知設定	データベース仮想サーバで発生するイベントに対して、通知 (メール) を受け取る設定ができます

## (2) ブロックストレージ

データを搭載するためのブロックストレージを提供します。契約者が 1GB～10TB の範囲で任意指定した容量分を増設ストレージとして 1GB 毎に割り当てて提供します。

## (3) スナップショット

リレーショナルデータベースのデータベース仮想サーバのスナップショットを取得し、保存できる機能を提供します。スナップショット取得時には、対象仮想データベースサーバについてのスナップショットが作成されます。取得したスナップショットより、リレーショナルデータベースを作成することができます。

## (4) バックアップ

データベースエンジンログおよびバックアップを閲覧、ダウンロードできます。ログは 72 時間分保持されますが、1 時間毎にローテートされ、古いログから削除されます。

## (5) サブネットグループ

データベース仮想サーバを配備して制御するためのネットワーク情報を、サブネットグループとして作成することができます。データベースの可用性を確保するため、複数のアベイラビリティゾーンに存在する 2 つ以上のサブネットを登録することができます。

## 7. メール配信

メール配信を行うサービスを提供します。

### (1) メール送信

提供機能	内容
メール送信機能	API を利用して送信 メールを送信するためのインターフェースを提供します。 REST API を使用して送信します。
送信結果モニタリング	メールの配信状況を過去 2 週間分さかのぼって確認すること

	ができます。
時間指定送信	メールを送信する際に、送信したい時間を設定すると、指定した時間にメールを配信します。

(2) メールセキュリティ

提供機能		内容
認証機能	送信者アドレス認証	本サービスを利用してメールを配信する場合に、登録が完了したメールアドレスのみ <b>From</b> アドレスとして設定することができます。
	ドメイン認証	本サービスを利用してメールを配信する場合に、登録が完了したドメインのみ <b>From</b> アドレスとして設定することができます。
メール正当性証明設定	Sender Policy Framework 認証設定	本サービスを利用してメールを配信する場合に、SPF 認証の仕組みを使って送信元が正規のものであることを証明することができます。

8. コンテンツ配信サービス

世界中に配置されている Akamai 社 Akamai Intelligent Platform のエッジサーバ（以下「エッジサーバ」という）を利用し、画像、動画等の Web で利用する静的なコンテンツをエッジサーバ上の保管領域（以下「キャッシュ」という）に保存し、Web を閲覧する利用者からの Web ページへのアクセスを最寄りのエッジサーバのキャッシュから参照できるようにして Web アクセスを高速化するコンテンツ配信を行うサービスを提供します。

本サービスは、(i) エッジサーバからのデータ転送量、(ii) エッジサーバへのリクエスト数、および (iii) HTTPS 独自ドメイン機能の登録ドメイン数に応じて費用が発生します。エッジサーバの地域は、エッジサーバへのアクセス元毎に最も近い地域が自動的に選択されます。

提供機能	内容
配信設定一覧の取得機能	契約者のプロジェクトで操作可能な配信設定の一覧を取得します。
配信設定の作成機能	配信設定を作成し、コンテンツ配信を開始します。
配信設定の取得機能	作成済みの配信設定 ID を指定して、配信設定内容を取得します。
配信設定の編集機能	作成済みの配信設定 ID を指定して、配信設定内容を編集します。
配信設定の削除機能	作成済みの配信設定 ID を指定して、配信設定を削除します。
キャッシュの消去機能	作成済みの配信設定 ID を指定し、キャッシュされたコンテンツをエッジサーバ上から消去します。
アクセスコントロール機能	キャッシュされたコンテンツの配信を一部の利用者に限定します。
レポートの作成機能	契約者のプロジェクトの範囲で作成した配信設定について、以下の①および②の組み合わせで、統計情報を作成します。 ①すべての配信設定または特定の配信設定 ②すべてのエッジサーバまたはエッジサーバの地域毎
レポートの取得機能	レポートの作成機能で作成した統計情報を、json 形式で取得します。
アクセスログ取得機能	エッジサーバのアクセスログを、オブジェクトストレージに作成したコンテナに格納します。アクセスログは暗号化することが可能です。

9. テンプレート

本機能については「東日本リージョン 1」および「西日本リージョン 1」においてのみ利用できます。契約者が構築した本サービスリソースのテンプレートを作成することができる機能を提供します。

(1) テンプレートビルダー

契約者は、配備したテンプレートビルダーを契約者が別途配備した仮想サーバで実行することにより、構築した本サービスリソースの複製を行うことができるテンプレートを作成し、保存することができます。

10. 監視サービス

契約者が構築した本サービスリソースおよび本サービスリソース上で契約者が実行するアプリケーションのモニタリング機能を提供します。

(1) カスタムメーター

本機能は、「西日本リージョン 3」および「東日本リージョン 3」は対象外です。

契約者がアプリケーション独自の監視項目を作成し、データの登録、モニタリングを実施することができます。

(2) モニタリング

本サービスリソースの標準の監視項目およびカスタムメーターを参照することができます。本サービスリソース毎に定義された監視項目について、モニタリングされたデータを API で取得することができます。

(3) アラーム

本サービスリソースの標準の監視項目または独自の監視項目において、指定された閾値を超えたときに、メール送信やオートスケール等のアクションを行うように設定することができます。

11. Web インターフェース

(1) サービスポータル

当社は、契約者が本サービスを利用するためのサービスポータル（本サービスポータル）を提供します。本サービスポータルが利用できるクライアント環境および利用にかかる制限については、以下のとおりです。

	サービスポータル
Web ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 10/11

a. 当社は、次の各号のいずれかに該当する場合には、契約者へ事前に通知することなく、本サービスポータルの提供を中断することができるものとします。

- ・本サービスポータル提供のため設備の故障等の場合
- ・運用上または技術上の理由でやむを得ない場合
- ・当社が提供を受けている他の電気通信事業者の都合により、本サービスポータルを提供するために必要な電気通信回線を利用できない場合
- ・本サービスポータルへのアクセス数またはデータ転送量の著しい増大により、本サービスポータルの提供に支障を来すと当社が判断した場合
- ・その他天災地変等不可抗力により本サービスポータルを提供できない場合

b. 当社は、本サービスポータルの全部または一部が利用できなかったことにより契約者または第三者が損害を被った場合であっても、一切責任を負わないものとします。

(2) リモートコンソール

- ・当社は、契約者が仮想サーバを利用するための仮想サーバのコンソールを提供します。
- ・リモートコンソールが利用できるクライアント環境および利用にかかる制限は以下のとおりです。

	内容
OS	Microsoft Windows 7 Microsoft Windows 8.1 Microsoft Windows 10



Web ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 11 Mozilla Firefox 49 Google Chrome 54
接続時間にかかる制限	連続 30 分
接続数にかかる制限	契約番号毎にアベイラビリティゾーンあたり同時に 5 接続可能
接続する仮想サーバにかかる制限	同時に 1 接続のみ

### (3) アプリケーションプログラミングインターフェース

当社は、契約者が本サービスを利用するためのアプリケーションプログラミングインターフェース（API）を提供します。API の仕様に関しては、当社より提供する API 関連ドキュメントより確認することができます。

## 12. 利用者管理

契約者は、本サービスリソースの利用権限を管理できます。

管理単位	内容
プロジェクト	ユーザーが所属する単位を表し、複数作成できます。
ユーザー	本サービスポータルにログインして、サービスが提供する機能を利用したり、資源を管理したりする「人」を表します。
グループ	複数のユーザーを所属させることができる集合体です。ユーザーの権限を一括で管理する場合等に利用します。
ロール	ユーザーやグループに権限を割り当てるための情報です。以下の 6 種類のロールがあらかじめ定義されています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・契約者ロール</li> <li>・全体管理者ロール</li> <li>・設計・構築者ロール</li> <li>・運用者ロール</li> <li>・監視者ロール</li> <li>・一般ユーザー</li> </ul>

## 13. セキュリティ

### (1) Trend Micro Deep Security as a Service オプション

本サービスについては「東日本リージョン 1」、「東日本リージョン 2」、「東日本リージョン 3」、「西日本リージョン 1」、「西日本リージョン 2」および「西日本リージョン 3」においてのみ利用できます。

仮想サーバに対するセキュリティソリューションを提供します。本機能は、サービス仕様書におけるコンピュータに含まれる機能を用いて配備された仮想サーバのみに適応されます。

本機能に関するサポートは別途設置している窓口より実施するものとします。本機能のサポートに関する詳細については、ソフトウェアサポート仕様書に記載のとおりとします。

## 14. ヘルプデスクサービス

本サービスの仕様の詳細、仮想サーバ、仮想システム等の設定方法および利用方法に関する質問等（本サービスにて提供されるソフトウェアに関する質問等を除く）に対する回答を行うヘルプデスクを設置します。本サービスの詳細に関してはヘルプデスクサービス仕様書よりご確認ください。

## 15. ソフトウェアサポートサービス

当社は、仮想サーバおよび専有物理サーバと同時に提供するソフトウェア（OS を含む）の一部について、当該ソフトウェアに関する、当該契約者向けのソフトウェアサポートを実施するものとします。ソフトウェアにおいて本ソフトウェアサポートの利用が必須とされる場合を除いて、本ソフトウェアサポートサービスを利用するには、当社サービス環境上で所定の操作を行うことにより、本ソフトウェアサポートを受けることを選択する必要があります。なお、当該ソフトウェアサポートの詳細については、ソフトウェアサポート仕様書に記載のとおりとします。また、「UK リージョン 1」、「フィンランドリージョン 1」、「ドイツリージョン 1」、「スペインリージョン 1」および「US リージョン 1」については、ソフトウェアサポ

ートサービスはヘルプデスクサービスの一部として提供されます。

#### 16. 専有物理サービスに関する注意事項

本サービスと以下の各サービスについては、併せて利用することができません。

- (1) テンプレート
- (2) 監視サービス
- (3) Trend Micro Deep Security as a Service オプション

#### 17. DNS/メール配信サービスに関する注意事項

##### (1) 利用制限

以下のいずれかに該当する場合は、契約者の承諾を得ることなく、DNS/メール配信サービスの利用を制限することがあります。

- a. ワーム型ウィルスの感染、大量送信メールの経路等により、当該契約者の DNS/メール配信サービスを利用する為の会員 ID およびパスワードを利用することにより第三者に被害が及ぶおそれがあると判断した場合。
- b. DNS/メール配信サービスの利用状況から、契約者の DNS/メール配信サービスを利用する為の会員 ID およびパスワードが第三者に無断で利用されたと推測される場合。
- c. 帯域を継続的かつ大量に占有する通信手順を用いて行われる当社所定の電気通信を検知し、当該電気通信に割り当てる帯域を制御すること等により、接続サービスの速度や通信量を制限する場合。
- d. 契約者に宛てた大量の迷惑メールの送信が行われた場合。
- e. 契約者に宛てた迷惑メールの送信元（メールアドレス、IP アドレス等）が虚偽または実在しないものであると認められた場合。
- f. 送信元ドメインの SPF レコードの設定を適切に行わない場合。
- g. 送信するメールのエラー率について、3%以上の状態が継続する場合。

##### (2) その他制限

当社は、以下のいずれかの事由が生じた場合には、契約者に事前に通知することなく、一時的に DNS/メール配信サービスの全部または一部の提供を中断することがあります。

- a. DNS/メール配信サービス用設備等の保守を定期的にまたは緊急に行う場合。
- b. その他、運用上または技術上当社が DNS/メール配信サービスの一時的な中断が必要と判断した場合。

当社は、前項各号のいずれか、またはその他の事由により DNS/メール配信サービスの全部または一部の提供に遅延または中断が発生しても、これに起因する契約者または第三者が被った損害に関し、一切責任を負いません。

#### 18. コンテンツ配信サービスに関する注意事項

- (1) HTTP の場合は 80 番、HTTPS の場合は 443 番ポートでのアクセスのみとなります。
- (2) DNS のメンテナンス（日本時間の毎月 1 日 0:00-1:00）に伴い、コンテンツ配信サービスの DNS 関連の操作が出来なくなります。
- (3) 解約時などに完全にキャッシュを消去したい場合、予めお客様からキャッシュの消去を実施頂く必要があります。
- (4) HTTPS 独自ドメイン機能は利用開始日から課金が発生します。
- (5) HTTPS 独自ドメイン機能で登録したドメインの認証は認証局にて自動的に行われます。認証に失敗した場合、対象ドメインを SSL サーバ証明書から削除する場合があります。
- (6) HTTPS 独自ドメイン機能を解約される場合、申込書にて解約申請が必要です。解約申請までは、(5)でドメインが SSL サーバ証明書から削除されている場合であっても、課金されます。
- (7) HTTPS 独自ドメイン機能ではお客様が所持する証明書を使用することはできません。また、証明書の秘密鍵をダウンロードすることはできません。

以 上

別表1 スタンダードサービス 提供 OS

OS の名称	ライセンサー											備考	
		東日本リージョン※1	東日本リージョン※2	東日本リージョン※3	西日本リージョン※1	西日本リージョン※2	西日本リージョン※3	JKリージョン※1	フィンランドリージョン※1	ドイツリージョン※1	スペインリージョン※1		USリージョン※1
Windows Server 2008 R2 SP1 Standard Edition 64bit 日本語版※1	マイクロソフト	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	SPLA ライセンスで提供
Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition 64bit 日本語版※1	マイクロソフト	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	SPLA ライセンスで提供
Windows Server 2012 Standard Edition 64bit 日本語版※1	マイクロソフト	○	○	—	○	○	—	—	—	—	—	—	SPLA ライセンスで提供
Windows Server 2012 R2 Standard Edition 64bit 日本語版※1	マイクロソフト	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	SPLA ライセンスで提供
Windows Server 2016 Standard Edition 64bit 日本語版※2	マイクロソフト	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	SPLA ライセンスで提供
Windows Server 2008 R2 SP1 Standard Edition 64bit 英語版※1	マイクロソフト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	SPLA ライセンスで提供
Windows Server 2012 R2 Standard Edition 64bit 英語版※1	マイクロソフト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	SPLA ライセンスで提供
Windows Server 2016 Standard Edition 64bit 英語版※2	マイクロソフト	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	SPLA ライセンスで提供
Red Hat Enterprise Linux 6.x (64bit) 英語版※1	レッドハット	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	本ソフトウェアサポートの利用必須
Red Hat Enterprise Linux 7.x (64bit) 英語版※1	レッドハット	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	本ソフトウェアサポートの利用必須
SUSE Linux Enterprise Server 12 64bit 英語版	スーゼ	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○	○	本ソフトウェアサポートの利用必須
CentOS 6.x (64bit) 英語版※1	(オープンソースソフトウェア)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
CentOS 7.x (64bit) 英語版※1	(オープンソースソフトウェア)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
Ubuntu Server 14.04 LTS(64bit) 英語版	カノニカル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
Ubuntu Server 16.04 LTS(64bit) 英語版	カノニカル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
Ubuntu Server 18.04 LTS(64bit) 英語版	カノニカル	○	○	—	○	○	—	—	—	—	—	—	
Red Hat OpenShift Container Platform 3.x (ノード) 英語版※3 ※4	レッドハット	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	本ソフトウェアサポートの利用必須
Red Hat OpenShift Container Platform 3.x (マスタ) 英語版※3 ※4	レッドハット	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	本ソフトウェアサポートの利用必須
Red Hat OpenShift Container Platform 3.x (インフラ) 英語版※3 ※4	レッドハット	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	本ソフトウェアサポートの利用必須

※1 仮想サーバタイプが P-1、P2-1、P3-1 の場合は、動作保証対象外となります。

※2 仮想サーバタイプが P-1、P2-1、P3-1、T-1、T2-1、T3-1 の場合は、動作保証対象外となります。

※3 下記のシステム構成で利用することができます。

開発・検証向けシステム構成	1 マスタ、2 ノード以上
本番向けシステム構成	3 マスタ、2 インフラ、2 ノード以上

※4 仮想サーバタイプが以下の場合は、動作保証対象外となります。

ノード : S-1, P-1, T-1, C-1, C-2, S2-1, P2-1, T2-1, C2-1, C2-2, S3-1, P3-1, T3-1, C3-1, C3-2

インフラ : S-1, P-1, T-1, C-1, C-2, S2-1, P2-1, T2-1, C2-1, C2-2, S3-1, P3-1, T3-1, C3-1, C3-2

マスタ : S-1, S-2, M-1, P-1, T-1, C-1, C-2, C-4, LM-1, S2-1, S2-2, M2-1, P2-1, T2-1, C2-1, C2-2, C2-4, LM2-1, S3-1, S3-2, M3-1, P3-1, T3-1, C3-1, C3-2, C3-4

別表 2 スタンダードサービス 提供ミドルウェア

ミドルウェアの名称	ライセンサー	東日本リージョン 1 東日本リージョン 2 東日本リージョン 3 西日本リージョン 1 西日本リージョン 2 西日本リージョン 3	UK リージョン 1 フィンランドリージョン 1 ドイツリージョン 1 スペインリージョン 1 US リージョン 1	備考
SQL Server 2008 SP4 Standard Edition 日本語版※1※2	マイクロソフト	○		SPLA ライセンスで提供
SQL Server 2008 R2 SP3 Standard Edition 日本語版※1※2	マイクロソフト	○		SPLA ライセンスで提供
SQL Server 2014 Standard Edition 日本語版※1※2	マイクロソフト	○		SPLA ライセンスで提供
SQL Server 2014 Enterprise Edition 日本語版※1	マイクロソフト	○		SPLA ライセンスで提供
SQL Server 2014 Standard Edition 英語版※1※2	マイクロソフト	○	○	SPLA ライセンスで提供
SQL Server 2016 Standard Edition 日本語版※1※2	マイクロソフト	○		SPLA ライセンスで提供
SQL Server 2016 Standard Edition 英語版※1※2	マイクロソフト	○	○ (UK リージョン 1 のみ)	SPLA ライセンスで提供

※1 仮想サーバタイプが P-1、P2-1 の場合は、動作保証対象外となります。

※2 ソフトウェアの仕様により使用できる最大ソケット数やコア数に制限がございますので、選択した仮想サーバタイプによっては、仮想 CPU 性能を十分に利用できないことあらかじめご注意ください。

別表3 スタンドサービス 提供 富士通製ソフトウェア

富士通製ソフトウェアの名称	ライセンサー	東日本リージョン1 西日本リージョン1 西日本リージョン2	東日本リージョン2 東日本リージョン3 西日本リージョン3 UKリージョン1 フィンランドリージョン1 ドイツリージョン1 スペインリージョン1 USリージョン1	備考
Interstage Application Server Standard-J Edition V11※1	富士通	○		対応 OS : RedHat Enterprise Linux 6.5 Windows Server 2012 R2 Standard Edition 64bit 日本語版
Symfoware Server Lite Edition V12※1	富士通	○		対応 OS : RedHat Enterprise Linux 6.5 Windows Server 2012 R2 Standard Edition 64bit 日本語版
Systemwalker Operation Manager Standard Edition V13※1	富士通	○		対応 OS : RedHat Enterprise Linux 6.5 Windows Server 2012 R2 Standard Edition 64bit 日本語版
Systemwalker Centric Manager Standard Edition (マネージャ用) V15※1	富士通	○		対応 OS : RedHat Enterprise Linux 6.5 Windows Server 2012 R2 Standard Edition 64bit 日本語版
Systemwalker Centric Manager Standard Edition (エージェント用) V15※1	富士通	○		対応 OS : RedHat Enterprise Linux 6.5 Windows Server 2012 R2 Standard Edition 64bit 日本語版

※1 仮想サーバタイプが P-1、P2-1、T-1、T2-1、C-1、C2-1 の場合は、動作保証対象外となります。

別表 4 スタンダードサービス 提供 仮想アプライアンス

商品の名称	ライセンサー	東日本リージョン 1 東日本リージョン 2 東日本リージョン 3 西日本リージョン 1 西日本リージョン 2 西日本リージョン 3	UK リージョン 1 フィンランドリージョン 1 ドイツリージョン 1 スペインリージョン 1 US リージョン 1	備考
IPCOM VA2 1300 LS(EX)※1	富士通	○		
IPCOM VA2 1300 SC※1	富士通	○		
IPCOM VA2 2500 LS(SSL)※2	富士通	○		
IPCOM VA2 2500 SC※2	富士通	○		

※1 仮想サーバタイプは S-1、S2-1 または S3-1 のみが動作保証対象となります。

※2 仮想サーバタイプは C-4、C2-4 または C3-4 のみが動作保証対象となります。

別表 5 スタンダードサービス 提供 機械学習環境

商品の名称	ライセンサー	東日本リージョン 1 東日本リージョン 2 西日本リージョン 1 西日本リージョン 2	東日本リージョン 3 西日本リージョン 3	UK リージョン 1 フィンランドリージョン 1 ドイツリージョン 1 スペインリージョン 1 US リージョン 1	備考
ReNom (開発・分析用) ※1	富士通	○ ※3	○		OS : CentOS 7.3 (64bit) 英語版
ReNom (開発・分析・ 推論・実行用) ※2	富士通	○ ※3	○		OS : CentOS 7.3 (64bit) 英語版

※1 仮想サーバタイプは M3-4、M3-8、S3-8、S3-16、C3-16、M2-4 のみが動作保証対象となります。

※2 仮想サーバタイプは M3-8、S3-16、M2-8 のみが動作保証対象となります。

※3 新規申込の受付を休止しています。

別表 6 SAP 向けサービス 提供 OS

OS の名称	ライセンサー	東日本リージョン 1 西日本リージョン 2	UK リージョン 1 フィンランドリージョン 1 ドイツリージョン 1	備考
Windows Server 2008 R2 SP1 Standard Edition 64bit 日本語版	マイクロソフト	○		SPLA ライセンスで提供
Windows Server 2012 R2 Standard Edition 64bit 日本語版	マイクロソフト	○		SPLA ライセンスで提供
Windows Server 2008 R2 SP1 Standard Edition 64bit 英語版	マイクロソフト	○	○	SPLA ライセンスで提供
Windows Server 2012 R2 Standard Edition 64bit 英語版	マイクロソフト	○	○	SPLA ライセンスで提供
Windows Server 2016 Standard Edition 64bit 日本語版	マイクロソフト	○ (西日本リージョン 2を除く)		SPLA ライセンスで提供
Windows Server 2016 Standard Edition 64bit 英語版	マイクロソフト	○ (西日本リージョン 2を除く)		SPLA ライセンスで提供

別表 7 専有物理サーバサービス 提供 OS

OS の名称	ライセンサー	東日本リージョン 1	東日本リージョン 2 東日本リージョン 3 西日本リージョン 1 西日本リージョン 2 西日本リージョン 3 UK リージョン 1 フィンランドリージョン 1 ドイツリージョン 1 スペインリージョン 1 US リージョン 1	備考
Windows Server 2012 R2 Standard Edition 64bit 日本語版	マイクロソフト	○		SPLA ライセンスで提供

別表 8 専有物理サーバサービス 専有物理ストレージ(S) 提供パターン

パターン	RAID ID	RAID 構成	ディスク構成	容量
1 (合計容量 : 8,900GB)	00	RAID1 + 0	5Data + 5Mirror	4,050GB
	01	RAID1 + 0	5Data + 5Mirror	4,050GB
	02	RAID1	1Data + 1Mirror	800GB
2 (合計容量 : 13,900GB)	00	RAID5 + 0	(4Data+ 1Parity) × 2	6,550GB
	01	RAID5 + 0	(4Data+ 1Parity) × 2	6,550GB
	02	RAID1	1Data + 1Mirror	800GB
3 (合計容量 : 12,150GB)	00	RAID1 + 0	5Data + 5Mirror	4,050GB
	01	RAID5	5Data + 1Parity	4,050GB
	02	RAID5	5Data + 1Parity	4,050GB

別表 9 専有物理サーバサービス 専有物理ストレージ(L) 提供パターン

パターン	RAID ID	RAID 構成	ディスク構成	容量
1 (合計容量 : 37,250GB)	00	RAID1 + 0	5Data + 5Mirror	4,050GB
	01	RAID1 + 0	5Data + 5Mirror	4,050GB
	02	RAID1 + 0	5Data + 5Mirror	4,050GB
	03	RAID1 + 0	5Data + 5Mirror	4,050GB
	04	RAID1 + 0	5Data + 5Mirror	4,050GB
	05	RAID1 + 0	5Data + 5Mirror	4,050GB
	06	RAID1 + 0	5Data + 5Mirror	4,050GB
	07	RAID1 + 0	5Data + 5Mirror	4,050GB
	08	RAID1 + 0	5Data + 5Mirror	4,050GB
	09	RAID1	1Data + 1Mirror	800GB
2 (合計容量 : 59,750GB)	00	RAID5 + 0	(4Data+ 1Parity) × 2	6,550GB
	01	RAID5 + 0	(4Data+ 1Parity) × 2	6,550GB
	02	RAID5 + 0	(4Data+ 1Parity) × 2	6,550GB
	03	RAID5 + 0	(4Data+ 1Parity) × 2	6,550GB
	04	RAID5 + 0	(4Data+ 1Parity) × 2	6,550GB
	05	RAID5 + 0	(4Data+ 1Parity) × 2	6,550GB
	06	RAID5 + 0	(4Data+ 1Parity) × 2	6,550GB
	07	RAID5 + 0	(4Data+ 1Parity) × 2	6,550GB
	08	RAID5 + 0	(4Data+ 1Parity) × 2	6,550GB
	09	RAID1	1Data + 1Mirror	800GB

3 (合計容量： 50,200GB)	00	RAID1 + 0	5Data + 5Mirror	4,050GB
	01	RAID1 + 0	5Data + 5Mirror	4,050GB
	02	RAID1 + 0	5Data + 5Mirror	4,050GB
	03	RAID1 + 0	5Data + 5Mirror	4,050GB
	04	RAID5	5Data + 1Parity	4,050GB
	05	RAID5	5Data + 1Parity	4,050GB
	06	RAID5	5Data + 1Parity	4,050GB
	07	RAID5	5Data + 1Parity	4,050GB
	08	RAID5	5Data + 1Parity	4,050GB
	09	RAID5	5Data + 1Parity	4,050GB
	10	RAID5	5Data + 1Parity	4,050GB
	11	RAID5	5Data + 1Parity	4,050GB
	12	RAID1	1Data + 1Mirror	800GB
	13	RAID1	1Data + 1Mirror	800GB

以上



附則（2015年10月1日）

本サービス仕様書は、2015年10月1日から適用されます。

附則（2015年12月1日）

本サービス仕様書は、2015年12月1日から適用されます。

附則（2016年3月1日）

本サービス仕様書は、2016年3月1日から適用されます。

附則（2016年4月1日）

本サービス仕様書は、2016年4月1日から適用されます。

附則（2016年4月7日）

本サービス仕様書は、2016年4月7日から適用されます。

附則（2016年6月30日）

本サービス仕様書は、2016年6月30日から適用されます。

附則（2016年7月20日）

本サービス仕様書は、2016年7月20日から適用されます。

附則（2016年7月29日）

本サービス仕様書は、2016年7月29日から適用されます。

附則（2016年8月4日）

本サービス仕様書は、2016年8月4日から適用されます。

附則（2016年8月19日）

本サービス仕様書は、2016年8月19日から適用されます。

附則（2016年9月1日）

本サービス仕様書は、2016年9月1日から適用されます。

附則（2016年10月7日）

本サービス仕様書は、2016年10月7日から適用されます。

附則（2016年12月2日）

本サービス仕様書は、2016年12月2日から適用されます。

附則（2016年12月22日）

本サービス仕様書は、2016年12月22日から適用されます。

附則（2017年1月10日）

本サービス仕様書は、2017年1月10日から適用されます。

附則（2017年1月23日）

本サービス仕様書は、2017年1月23日から適用されます。

附則（2017年2月13日）

本サービス仕様書は、2017年2月13日から適用されます。

附則（2017年2月28日）

本サービス仕様書は、2017年2月28日から適用されます。

附則（2017年3月1日）

本サービス仕様書は、2017年3月1日から適用されます。

附則（2017年3月16日）

本サービス仕様書は、2017年3月16日から適用されます。

附則（2017年4月3日）

本サービス仕様書は、2017年4月3日から適用されます。

附則（2017年4月12日）

本サービス仕様書は、2017年4月12日から適用されます。

附則（2017年4月27日）

本サービス仕様書は、2017年4月27日から適用されます。

附則（2017年6月1日）

本サービス仕様書は、2017年6月1日から適用されます。

附則（2017年6月16日）

本サービス仕様書は、2017年6月16日から適用されます。

附則（2017年7月18日）

本サービス仕様書は、2017年7月18日から適用されます。

附則（2017年8月1日）

本サービス仕様書は、2017年8月1日から適用されます。

附則（2017年8月18日）

本サービス仕様書は、2017年8月18日から適用されます。

附則（2017年9月28日）

本サービス仕様書は、2017年9月28日から適用されます。

附則（2017年10月19日）

本サービス仕様書は、2017年10月19日から適用されます。

附則（2017年11月2日）

本サービス仕様書は、2017年11月2日から適用されます。

附則（2017年12月4日）

本サービス仕様書は、2017年12月4日から適用されます。

附則（2018年1月11日）

本サービス仕様書は、2018年1月11日から適用されます。

附則（2018年1月26日）

本サービス仕様書は、2018年1月26日から適用されます。

附則（2018年2月1日）

本サービス仕様書は、2018年2月1日から適用されます。

附則（2018年2月15日）

本サービス仕様書は、2018年2月15日から適用されます。

附則（2018年3月22日）

本サービス仕様書は、2018年3月22日から適用されます。

附則（2018年4月9日）

本サービス仕様書は、2018年4月9日から適用されます。

附則（2018年4月19日）

本サービス仕様書は、2018年4月19日から適用されます。

附則（2018年6月22日）

本サービス仕様書は、2018年6月22日から適用されます。

附則（2018年6月29日）

本サービス仕様書は、2018年6月29日から適用されます。

附則（2018年7月31日）

本サービス仕様書は、2018年7月31日から適用されます。

附則（2018年8月30日）

本サービス仕様書は、2018年8月30日から適用されます。

附則（2018年10月1日）

本サービス仕様書は、2018年10月1日から適用されます。

附則（2018年12月3日）

本サービス仕様書は、2018年12月3日から適用されます。

附則（2019年1月11日）

本サービス仕様書は、2019年1月11日から適用されます。

附則（2019年2月8日）

本サービス仕様書は、2019年2月8日から適用されます。

附則（2019年3月1日）

本サービス仕様書は、2019年3月1日から適用されます。

附則（2019年3月20日）

本サービス仕様書は、2019年3月20日から適用されます。

附則（2019年4月1日）

本サービス仕様書は、2019年4月1日から適用されます。

附則（2019年4月25日）

本サービス仕様書は、2019年4月25日から適用されます。

附則（2019年5月23日）

本サービス仕様書は、2019年5月23日から適用されます。